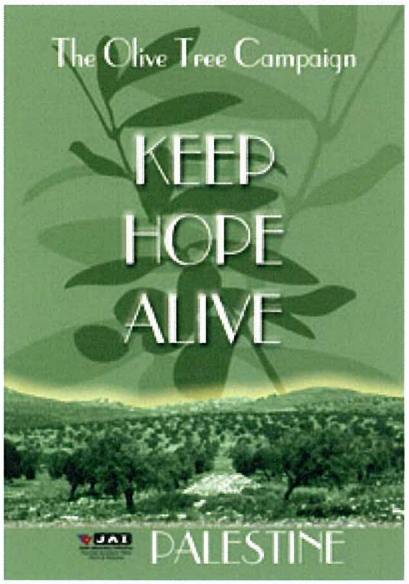
2010年度パレスチナ・オリーブ収穫プログラム

報 告 書



ご支援いただきましたYMCA国際協力募金・在日本韓国YMCA・

東京センテニアル・ワイズメンズクラブに感謝申し上げます。

参加者：陣内幸代・大川大地

在日本韓国YMCA・日本YMCA同盟

募集要項（YMCA 関係者用）

2010 年 パレスチナ・オリーブ収穫プログラム

2010 برنامج قطف الزيتون / Olive Picking Program 2010

参 加 者 募 集

日本の YMCA、YWCA は、世界運動とのつながりの中で、パレスチナにおける正義と平和の実現を目指す現地の YMCA、YWCA の活動に大いに関心を持ち、連帯の働きを続けてきました。特に、東エルサレム YMCA とパレスチナ YWCA 共同による JAI (Joint Advocacy Initiative) が行う「オリーブの木キャンペーン」に積極的に協力、参加し、同キャンペーンと関連して行われるオリーブ植樹および収穫プログラムに、2004 年以来ほぼ毎年参加者を派遣してきました。

今年も秋に行われるオリーブ収穫プログラムへの日本からの参加者を募集します。

プログラムには欧米を中心に世界中からの参加者が集まります(2008 年参加者 18 カ国 約 100 名)。安全管理に関しては、現地スタッフが入念に事前調査し、安全最優先で進められます。

パレスチナの地における正義と平和の実現に関心を持つ皆様のご参加をお待ち申し上げます。

■ 実施要項

日　　程：2010 年 10 月 16 日(土)出発～10 月 26 日(火)到着

*成田空港発着となります。

場　　所：パレスチナ・ベツレヘム周辺

主　　催：JAI (Joint Advocacy Initiative：東エルサレム YMCA、パレスチナ YWCA)、ATG (Alternative Tourism Group)

パレスチナの人々にとってオリーブの木は幸福と繁栄の大切なシンボルであると同時に、農民の多くがその木や実によって収入を得ています。イスラエルは、入植地、分離壁、バイパス道路等の建設のため、パレスチナ人農地のオリーブの木を大量に破損し、また様々な嫌がらせによって収穫を妨害しています。

こうした現状を世界の人々に理解してもらい、オリーブ収穫に対するイスラエルの妨害を国際的な連帯によって防ぐことを目的として、東エルサレム YMCA とパレスチナ YWCA が共同で組織した JAI (Joint Advocacy Initiative)と、現地の旅行会社である ATG (Alternative Tourism Group) が共同で今回のプログラムを企画、主催します。

派遣事務局（日本）：日本 YMCA 同盟、在日本韓国 YMCA

「和解と共生」の実現をテーマとして働く在日本韓国 YMCA は、創立 100 周年（2006 年）を機に、東エルサレム YMCA とのパートナーシップ締結に向け、会員スタッフの相互訪問をはじめとする交流を進めています。東エルサレム YMCA は 2010 年 7 月に行われた第 17 回世界 YMCA 大会にて正式加盟が承認され、世界の YMCA 運動がパレスチナの地の平和の実現に向けて、さらに大きく動き出しています。

定　員：6 名程度（最少実施人数 2 名）※ 日本 YMCA 同盟スタッフが引率同行します。

対　象：

1．会員、スタッフ等として YMCA、YWCA の活動に関わる方

2．中東情勢に関する基本的な知識があり、現地の状況に応じて柔軟かつ冷静に対応できる方（現地スタッフや引率者の指示に従い、団体行動が原則となります）

3．20 歳以上で、英語での意思疎通、交渉が可能な方（プログラムは英語で進行されます。通訳は同行いたしません）。

4．グループ行動ができる協調性があり、異文化社会での生活への順応性がある方。

5．海外でのスタディツアー、ワークキャンプ等への参加経験がある方。

6．飛行機・バス等での長時間の移動、現地でのオリーブ収穫作業等に耐えられる体力のある方。

募集要項（YMCA 関係者用）

（場合によっては、事前に選考をさせていただくことがございます。あらかじめご了承ください。）

参加費：200,000 円　※ 燃料費変動等のため、費用は若干変更される可能性があります。

YMCA 国際協力募金より支援をいただいています（一人 8 万円程度・参加費は支援を差し引いた参加者自己負担分）。

○ 参加費に含まれるもの

・渡航費　・現地滞在費（宿泊食費、現地移動交通費）　・配布資料費

※ 日本からイスラエルまでの往復航空券は YMCA で手配いたします。

※ 国際協力募金などによる支援もございます。詳細はお問合せください。

○ 参加費に含まれないもの

・パスポート取得費用　・日本国内交通費　・戦時特約保険料　・現地および経由地における自由時間の食費や移動交通費　・その他個人的な費用

※ パスポートについて：入国時の残存有効期間が 6 ヶ月以上必要（日本および韓国国籍者はビザ不要。その他の方はお問合せください）。

※ 旅行傷害保険ならびに戦時特約保険（1 万 5 千円程度）に加入していただきます。

日程（予定。変更される可能性があります。ご了承ください。）

10 月 16 日（土）

日本出発（成田空港から）。ヨーロッパ等の都市経由、イスラエル・ベングリオン空港着（深夜）。ベツレヘムに移動（出迎えあり）。

10 月 17 日（日）

オリーブ収穫開始。半日作業。昼食後、ベツレヘム市内視察（難民キャンプ等）。夕食後、ドキュメンタリー映画鑑賞。

10 月 18 日（月）

半日収穫作業。昼食後、分離壁・土地収奪の状況に関するプレゼンテーション。オリーブ油工場見学。

10 月 19 日（火）

エルサレム旧市街見学。昼食後、エルサレム周辺の入植地を視察。

10 月 20 日（水）

終日自由（日本参加者は、東エルサレム YMCA を訪問する予定）。

10 月 21 日（木）

ヘブロン旧市街（イブラヒーミーモスク等）見学。ガラス工場訪問。

10 月 22 日（金）

終日収穫作業。

10 月 23 日（土）

半日収穫作業。難民の状況に関するプレゼンテーション。

10 月 24 日（日）

半日収穫作業。評価会。お別れディナー。

10 月 25 日（月）

早朝ベングリオン空港に移動。出国。10 月 26 日（火）日本到着予定。

申込方法：

所属 YMCA を通して、日本 YMCA 同盟または在日本韓国 YMCA にお申込ください（9 月 10 日締切）。

※ 申込書は別紙。

その他：

（1）このプログラムは、現地の情勢により、やむを得ず中止される場合があります。その際、キャンセル料（航空券代等）がかかる場合には、参加者負担となります。

（2）出発前に事前準備会を行います（個別に行う場合もあります）。

申込み・問合せ先

日本ＹＭＣＡ同盟　TEL 03-5367-6640 / FAX 03-5367-6641

在日本韓国ＹＭＣＡ　TEL 03-3233-0611 / FAX 03-3233-0633

陣内幸代　（在日本韓国 YMCA・
東京ｾﾝﾃﾆｱﾙ・ﾜｲｽﾞﾒﾝｽﾞｸﾗﾌﾞ）

■期間：2010 年 10 月 16 日（土）～10 月 26 日（火）　9 泊 11 日間

1 日目；2010 年 10 月 16 日（土）

TK051　成田空港発 13：35　⇒　イスタンブール 19：40 着

TK792　イスタンブール 23：30　⇒　テルアビブ 00：40＋1 着

入国審査では『目的は？』『イスラエルは何度目か？』『誰と来たか？』『どういう関係か？』『滞在先はどこか？』など質問された。審査通過後、さらに係員に呼び止められ、ホテルの確認を見せろと言われて少しあせったが、YMCA メンバーの為確認書はないと言い張り、なんとか通過できた。手配してもらっていたバスに乗り、ベイトサルーフにある宿泊ホテル“サハラホテル”へと向かった。

2 日目；2010 年 10 月 17 日（日）

8：00 にホテル出発。半日オリーブ収穫。（Jab'a）ブルーシートを下に引き、オリーブの実を落としていき、最後にまとめて袋につめていく。農場の子供たち 4 ～5 人も手伝い、休憩にはアラビアコーヒーや紅茶をいただき、もくもくと作業を続けていく。今年は雨が少なく、木によってはオリーブの実が乾燥してしまっているものや、大きく育たず小さい実しかなっていないものが多かった。それでもこれが農家の収入源で少しでも役に立てばと思うと、黙々と作業を続けた。

ランチ後、ベツレヘムの Dheisheh 難民キャンプへベツレヘムでも一番大きい難民キャンプとのこと。キャンプ内にはカルチャーセンターがあり、その隣には日本政府が建てた病院もあった。

Dheisheh キャンプは 1949 年、西エルサレムやヘブロンから逃れた約 3,400 人のパレスチナ人の為につくられた。キャンプ内の人口は約 13.000 人住んでいるそうだが、今にも崩れてきそうな建物に何族もすんでいることになる。難民キャンプ見学後、分離壁近くまで行った。実際に壁を目の当たりにすると、自分が刑務所にいるかのような感じがした。壁の向こう側とこちら側だと景色がまったく違うことに驚いた。

その後、生誕教会へ。キリストが生まれたと言われる洞窟がある。2002 年に起きたパレスチナ人による約 1 ヶ月の立てこもり事件で多数の犠牲者がでたという話を聞いた。

収穫の手伝いをする子供

難民キャンプ内の子供たち

分離壁

3日目；2010年10月18日（月）

8：00にホテル出発。半日オリーブ収穫。（Beit Jala）ここの農夫はぶどうやアプリコット・りんごもの農場も所有しているが、バイパスが近くを通っているため、農場まで行くのが難しいとのこと。
収穫後、ARIJ（The Applied Research Institute-Jerusalem）でプレゼンテーションを受ける。分離壁や占拠についてグラフや写真で解説してくれた。
http://www.arij.org

4日目；2010年10月19日（火）

終日エルサレム観光。エルサレムに入るときにチェックポイントを通過したが、バスの中に兵士が２人乗り込み、一人ずつパスポートをチェックしていた。肩から銃弾を下げ、それを間近で見ると何もしていなくても動揺してしまった。西エルサレムはユダヤ人が多く住んでいるところだが、道には線路が建設中で、そのまわりには緑を育てるために大量のスプリンクラーが水をまいていた。一方、パレスチナ側では水・電気などのライフラインは限られており、こうも違うのかとショックだった。町を見ても、東エルサレムはゴミが多いし、道路も整備されていない。国民が納めている税金はイスラエル側にほとんど使われているという。
ダマスカス門より旧市街へ。嘆きの壁の近くはユダヤ人しか入れず、私たちは枠の外で見学した。広場の前に建つ建物の屋上でもユダヤ人がお祈りをしていた。ガイドはパレスチナ人の為、嘆きの壁には行くことができない。同じ、旧市街で住んでいても入ることが許されない場所がいくつもある。今回のガイドと会うのにも非常に苦労した。ガイドとやっと会えた後、イスラム地区、ユダヤ地区、アフリカン地区を見学した。ガイドはアフリカ系パレスチナ人だが、旧市街の地図にはアフリカン地区はのっていないらしい。ガイドの家まで連れて行ってもらい話を聞いた。このガイドは１８歳で逮捕され、約２０年間収容されていたとのこと。足を引きずって杖をついて歩いていたが、収容されたときに拷問されたのではないかと思う。
昼食後、The Israeli Committee Against House Demolitions(ICAHD)でJeff Halperさんのお話を聞いた。ここは、パレスチナ人の家が破壊されたり、占領されるのを阻止するための団体で１９９７年に創立された。ICAHDのメンバーは占領された家の前でデモを行ったり、破壊された家を再度建設しなおしたり、外国人のツアーなど活動を行っている。
http://www.icahd.org

スプリンクラーで大量の水をまく

嘆きの壁

ガイドはアフリカ系パレスチナ人

5 日目；2010 年 10 月 20 日（水）

終日ヘブロン観光。ここは旧市街の真ん中に入植地を建設し、入植者たちはパレスチナ人の家の 2 階に住んでいる。500 世帯の入植者が旧市街に住んでおり、2,000 人のイスラエル兵がそれを守っている。4,000 人のパレスチナ人が旧市街に住んでいるが、多くのお店は閉まっていた。道にはブロックで作られたフェンスで通り抜けできないようにしたり、2 階に入植者が住んでいるため、2 階からゴミや危険物が下に住んでいるパレスチナ人に投げられたりと悲惨な状況だった。それを防ぐために金網のフェンスをしているが、そこには大量のゴミが投げ捨てられていた。私たちが見学途中にも上からイスラエル兵が監視をしており、ペットボトルを投げてきた。

旧市街見学後、アブラハムのお墓があるというモスク見学。その後、オリーブオイル工場とガラス工場を見学。

破壊された家

6 日目；2010 年 10 月 21 日（木）

終日オリーブ収穫。

7 日目；2010 年 10 月 22 日（金）

今日は自由行動のため、ベイトサフール YMCA を訪問。金曜日の為、リハビリテーションはほとんど閉まっていたが、子供たちの水泳教室は見学できた。またキリストが誕生したといわれている洞窟を案内してくれた。その後、東エルサレム YMCA を訪問。アンドレ主事が案内してくれた。昼食は YMCA 内でいただき、ミシェルさんの日本滞在話で盛り上がった。また、東京センテニアルから募金があったパレスチナの子供たちのエルサレムバスツアーに関しても催行決定の報告も受けた。比較的エルサレムに入りやすい子供たちの為に日帰りのバスツアーを催行させようという考えから実際に催行できることを聞いて、本当にうれしく思う。その後、Sheikh Jarrah で毎週金曜日に行われているデモに参加した。現地に到着すると相当な人数に外国人が太鼓を叩き、歌いながら “Free Parestine!”などと叫んでいた。私もプラカードを持ってデモに参加した。目の前にはイスラエル兵が十数人いたが、何も抑圧することはなかった。なぜなら元アメリカ大統領ジミー・カーターが突然デモに訪れたため、イスラエル

8日目；2010年10月23日（土）

8：00ホテル出発。半日オリーブ収穫。（Al Khader） 景色が非常にいいところだったが、分離壁とグリーンラインの間にあるところで、分離壁のせいで自分の農場が分断され、反対側の農場に行くのにも非常に時間がかかると聞いた。

9日目；2010年10月24日（日）

8：00ホテル出発。半日オリーブ収穫。今回の農場は目の前の高台が入植地で、入植地の下水が下のパレスチナ側に流れているのか、非常ににおいが鼻についた。そしてやはりここもゴミがあちこちに散乱している。度々、入植者やその子供達が石を投げたり、嫌がらせをするため、入植地の近くのオリーブは収穫しないらしい。今回嫌がらせはなかったが、上から見られているようで不気味な感じがした。
ただ、そんな中でも農場の人たちはコーヒーやお茶をサービスしてくれたり、疲れていないかなど気を遣ってくれたりと、なぜここまで心が広く持てるのかと不思議になるくらいだった。
夜はベイトサフール YMCA でフェアウェールパーティが行われた。少年少女によるアラビアンダンスと民族音楽の演奏を聞いた。最後は参加者たちで音楽にあわせて踊って楽しんだ。

10日目；2010年10月25日（月）

5：00ホテル出発。出発の3時間前には空港に到着しておいたほうがいいということだったので、早めにホテルを出発。
空港では事前に聞いていたように非常に厳しい手荷物検査を受け、チェックインカウンターまで検査スタッフが後ろで監視されながら、何とか無事通過。今回は事前の情報よりもかなりスムーズにうまくいった。大阪から合流した川端国世さんは、『あまりにもスムーズすぎてなんだか不気味だ』とおっしゃっていましたが、無事に日本に帰国できた。

★今回ツアーに参加して★

実際にパレスチナについては何も知識がなく、何が起こっているかなど考えたこともなかったが、Y'Sでの話や参加者の話を聞いて、“直接行ってこの目で見てみたい“と思うようになり、今回参加させていただいた。

外務省の渡航情報によるとパレスチナ自治区への『渡航は延期することをおすすめします』と発表されており、行くまではどれだけ危険な地域なのか、何かあったらどうしようかと不安でいっぱいだった。しかし、パレスチナに入るととても平和的で、すれ違う人は必ず挨拶をしてくれるし、会う人会う人がすべて親切にしてくれた。日々の生活がおびやかされているにも関わらず、どうしてここまで人に優しくなれるのか、そう考えると自分がとても小さい人間だと恥ずかしささえ覚えた。

今、私が日本でできることは何か、私なりに考えたが、まずはパレスチナで見た状況を家族・友人・知り合いに話すこと。まだまだイスラエル・パレスチナについての情報は日本では少なすぎると思う。ほとんどの友人は『戦場で銃弾が飛び交っているんでしょ？』とか『テロリストがいるところでしょ？』などと聞いてくる。実際に私も行く前のイメージはそうだった。一人でも多くの人に伝えていこうと思う。そして一人でも多くの日本人がパレスチナに行って直接目で見て、感じてもらいと思う。

生活の柄

大川大地（同志社大学 YMCA）

歩き疲れては　夜空と陸との　すきまにもぐり込んで
草に埋もれては　寝たのです　ところかまわず　寝たのです
歩き疲れては　草にうもれて　寝たのです　歩き疲れ　寝たのですが　眠れないのです
―　高田渡『生活の柄』

パレスチナとは日常であり、生活である
―　四方田犬彦『パレスチナ・ナウ』

「夜になると先まで眠っていた私の幼い娘が起きてきて、私にこう言うの。『ママ、イスラエルの兵隊が来るわ！』って。娘も私ももう何日も眠れていないわ」　パレスチナで見たドキュメンタリー・フィルムの中である若い母親が語った言葉だ。

パレスチナでのオリーブ収穫の最後の日。収穫が終わってから、小さなオリーブの木の下で横になった。強い日差しもオリーブの枝葉にさえぎられ、私のところには届かない。心地よい風が吹いてくる。静かな午後のひと時である。

いったいどれくらいのパレスチナ人が、同じようにオリーブの下で心地よく横になったのだろう、と思った。そしてどれくらいのパレスチナ人が、その静かな眠りを奪われてきたのだろうか。

パレスチナと聞いて私たちが想像するものは何だろうか。そびえたつ分離壁。イスラエル軍の占領と虐殺。入植地。そしてパレスチナ人の抵抗…。悲しいことだが、確かにそれがパレスチナの現実だ。私もパレスチナで逃げ出したくなるほどにその現実に直面させられた。イスラエルの兵隊たちが銃を片手にパレスチナ人の移動を制限し、監視している（後から知ったことだが、このような「過酷な」任務にあたる者のほとんどが、「イスラエル」の中で二級市民として扱われているアフリカや中東諸国からの「移民」たちだ。いったい占領とは何なのだろう）。「聖地」エルサレムにおいてでさえも、ユダヤ人がパレスチナ人地区に向かって上からゴミを投げている。ベツレヘムには冷たく、分離壁がそびえ立つ。パレスチナ人の「投石」や「落書き」ではびくともしないその分離壁に、パレスチナ人たちの「希望」はいとも簡単に崩されてしまう。そして世界中からキリスト教の「聖地」に集まる「巡礼者」たちはパレスチナの現状などには見向きもしない。パレスチナは「無関心」と「死」と「あきらめ」に支配されているようだ。天使たちが羊飼いにイエスの誕生を告げたという教会で「巡礼者」たちが歌う「キリストの平和」がベツレヘムの乾いた空に虚しく響く。

しかし、私のみたパレスチナはそれだけではなかった。パレスチナの現実を否定することなど誰にもできない。そこでは毎日のようにパレスチナ人が殺され、土地を奪われているのだ。それを否定することなど許されない。しかし、私のみたパレスチナはそれだけではなかった。

世界から集まった「友」たちとオリーブを収穫しながら交わした他愛もない冗談を思い出す。イギリスから来たあるカンボジア人は何がおもしろいのか分からないが、いつも独特な甲高い声で笑っていた。

パレスチナでは、いろいろなものを食べた。オリーブ収穫の後に食べた「そばめし」のようなパレスチナ料理。パレスチナの民家でふるまわれたくそマズいスープ（あれは何だったんだろう）。ウォッカと泡盛を足して栄養ドリンクで割ったようなパレスチナの酒「アラーク」。そして水タバコ（4月から禁煙していたのに、この水タバコのせいで喫煙者に戻ってしまった。ニコチンは入ってないって言ったじゃん！）。イエスは敵対する人々から「大食漢で大酒のみ」と揶揄されていた。きっとイエスもパレスチナの「食」を愛していたに違いない。

いろいろなものも見た。ベツレヘムのホテルのテレビではひたすらインド映画が流れていた（これも日本に帰ってから知ったことなのだが、イスラエルで二級市民として冷遇されている「移民」のユダヤ人や、パレスチナ人が愛するのは、シオニズムの宣伝映画や、やたら哲学的な芸術映画などではなく、インド映画やハリウッドなどの大衆娯楽映画なのである）。

オリーブの収穫の時にどこかの丘で見た景色が忘れられない。一面に青い空と白い雲と、オリーブ、そしてきれいな大地が広がっているのだ。「空の鳥をよく見なさい。野の花がどのように育つのか注意して見なさい」（マタイ福音書６：２５）そのようにイエスが語ったそのままの景色が私の目の前に広がっていた。私が見たパレスチナの「現実」は「生活」だった。朝には教会の鐘が鳴り、夕方にはモスクのスピーカーからクルアーンの朗読が大音量で聞こえてくる。そこには確かにパレスチナ人の「生活」があった。

イエスは「生活」を愛していたのではないかと思う。だからイエスはその「生活」が宗教イデオロギーやローマによって破壊されることに我慢ができなかったのだ。きっとパレスチナ人たちも同じ理由で怒っている。突然シオニズムなる巨大なイデオロギーによって「生活」が破壊される。彼ら／彼女らはそのことが許せないのだ。

「私たちはテロリストではない！」あるパレスチナ人が怒りを込めて私たちに語ってくれた。その通りだ。パレスチナ人たちは、私たちと同じように歩き、働き、食べ、飲み、映画を観る。そのような私たちとまったく変わらない生活が破壊されるのだ。メディアには「暴力の連鎖」という言葉が躍るが、しかし、少し想像力を働かせてみたら分かる。生活を破壊されるとはどういうことなのか。壁に囲まれて生きるとはどういうことなのか。ゴミを投げられながら生きるとはどういうことなのか。そんな現実に怒らないでいられるわけがない。

「神は闘いの中におられる」とある人が本に書いていた。しかし、そうではないと思う。神はパレスチナの「生活」の中におられるのではないか、と思う。神によって祝されたはずの生活が破壊されるから、彼ら／彼女らは怒り、闘っているのだ。

パレスチナの「生活」を前にして、「平和」や「解放」や「和解」などという言葉を軽々しく言うのはやめようと思う。私にそんな言葉を口にできる資格はない。

しかし、私はパレスチナの「生活の柄」と共に喜び、共に泣き、共に怒り、共に生きる、遠く離れた日本の地でそのような「生活」をしたい、と思う。「共に生きる」ことから「平和」や「解放」や「和解」が実現される、と信じて行動する者であろうと思う。いつか「隔ての壁が取り壊される」その日を見つめながら。

在日本韓国 YMCA からの提案により、東京センテニアル・ワイズメンズクラブが支援し、東エルサレム YMCA による「One Day Jerusalem」プログラム（西岸の子供たちのエルサレム訪問）が、2010 年 11 月 11 日に実施されましたので、合わせてご報告いたします。（事務局）

Dear KAZU , （在日本韓国 YMCA・田附和久スタッフ）

Many greetings and best wishes from the sunny Jerusalem , at last we succeeded to get the permits from the Israeli coordination office for the children visits to Jerusalem , well we asked for 45 child and 5 staff &leaders , we were given permits for 40 child , 5 staff &leaders and three they did not come because they were sick so we were all in all 42 participants .
Short report of the visit :

We informed 100 families of our program and told them that the East Jerusalem YMCA is planning for two children special visit to Jerusalem supported by ,The Tokyo centennial Y service club (Y's men's club).

More than 100 kids 8- 13 years old were registered and we had send 45 names to the Israeli coordination offices in Bethlehem for the permits they had given us the permits as I mentioned above, and decided the dates which was Sunday 11th of November, 2010.

So the 42 participants get to the YMCA Beit Sahour community and sports center at 8.00 o'clock in the morning and took the special Jerusalemite yellow plated bus to Jerusalem, at the check post all of the children and the leaders were checked and looked at their permits and went though , at 9.30 they reached St. Stephen Gate of the old city wall and went into the Al Aksa mosque & the Dome of the rock were they were received by a special guide who took around the site and explained for the children the historical and religious information's, at 10.30 they went through the old city markets and had some oriental snack and later proceed to the Holy Church of Sepulcher and visited the different Christian sections were they were also guided by our staff and leaders, at 12.30 they walked in the Christian quarter and visited Jaffa gate and the New gate and walked down the hill to the EJ-YMCA passing by Damascus Gate .

The children were dead tired from the long walk so they had one hour of swimming and then they had a hot meal at the YMCA cafeteria.

At 3.30 they went down to the yard in front of the YMCA to play some group games until 4.30 . the Bus came and took them around the walls of Jerusalem and passed by Mount of Olives on the their way home to Beit Sahour at 5.30 pm. To many children it was their first visit to Jerusalem all of them were very happy and so their families we had many telephone calls the next day to thank us for this visit, and on their behave We would like to thank you all again for the

(Y's men's club) concern & support and special thanks to Mr. Seo Jung Hwan & Mr. Takao Nishimura (Nishi) for their contributions to .

We will inform you of the next visit date which it may be in the beginning of January of next year. The Pictures will shoe more the joy of the children thank you again our friends .

Michel Asfour
Program Director /EJ- YMCA